校長会報

第136号

宇都宮市立西原小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
髙山裕一

印刷所
(有)正栄社印刷所

主張

管理職として果たすべき役割

栃木県小学校長会副会長
橋本　啓二

八月に示された「論点整理」そして、十一月に公表された「審議のまとめ」など教育界の動向には教師という職業を考えると目を離すことのできない昨今である。しかし、校長は様々な学校課題の対応に追われている。じっくり腰を据えて、崇高な教育理念のもと、学校経営に取り組む時間があまりない。私は理事・副会長として県小学校長会に参加させていただき、日頃学ぶことができない多くのことを吸収し、それを経営に生かすことができたのは幸いである。特に喫緊の教育課題や教育行政の指針・方策などは校長として経営という視点から重要である。

さて、そうした経験から、管理職として果たす役割を考える機会が多くなった。私は管理職は創造的リーダーシップを発揮し、組織の目標達成に向けて全力を尽くすことが大切と考える。創造的リーダーシップのキーワードは部下職員への「影響力」である。さらに目標達成は、部下職員を通して実現できることに意義がある。率先垂範も必要であるが、「任せて信じて問われるまで待つ」といった姿勢も捨てがたい。この折り合いをどうつけていくかが、管理職の腕の見せ所である。

私は新任校長となったとき、①先見性　②積極性と情熱　③みずみずしい感性を兼ね備えた校長をめざそうと考えた。それから時を経て、この理想はだいぶ色あせ、「大過なく」という四文字が目の前にちらついているが、ここは一踏ん張り、奇をてらう方針・方策ではなく「凡事徹底」～当たり前のことを当たり前に～の気持ちで数ヶ月と迫ったこの職を全うしていきたいと考えている。たくさんの示唆をいただいた栃木県校長会に深く感謝申し上げたい。

（さくら市立氏家小学校）

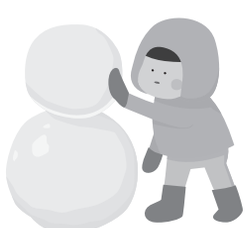
主張

次期学習指導要領に向けて

栃木県小学校長会副会長
田熊　克己

数日前に、「次期学習指導要領で答申　中教審総会で文科相に手交」というニュースが流れました。

答申案の概要を読むと、「子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。」と書かれています。この答申の内容は、変化の激しいこれからの時代を生きる子供たちにとって、とても大切な考え方だと思いました。



また、具体的な中身を見ると、五年生からの英語が正式科目、プログラミング教育の必修化、アクティブ・ラーニングの導入など、さまざまな方向性が打ち出されています。

あと二年後には先行実施も可能ということなので、今後の告示を受けて、改訂の趣旨や背景にあるものを、全職員で研修し、しっかりと共通理解を図っていかなければなりません。来年度は、今年度に増してさらに忙しい年になりそうです。

この概要の後ろの方に、「学習指導要領の実施に必要な諸条件の整備」という項目があり、「教員の資質・能力の向上」「指導体制の整備・充実」等がうたわれていました。そこには、たった三行でしたが、「業務の適正化」という項目もありました。以前、文科省が策定した、「学校現場における業務の適正化に向けて」に基づき、学校の業務の適正化に向けた方策を着実に実施することが求められるという内容です。学校は、子供たちの生きる力を育むために、これまでも精一杯の力を注いできました。これからも、学校の先生方は、子供たちのために力を惜しむことはありません。だからこそ、「業務の適正化」は、本当に一番大切な内容だと思いました。

今日のニュースに、「残業八十時間超で企業名を公表、基準厳しく」という記事がありました。みなさんの学校は、いかがでしょうか。

（壬生町立安塚小学校）

栃木県小学校長会中央研究大会

大会主題「新しい知を生かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」

研修部長　飯山　百合子

七月十四日、栃木県総合教育センターで開催された。

一　開会

○開会の言葉
　副会長　横塚　貞一

○会長あいさつ
　会　長　髙山　裕一

○来賓あいさつ
　県教育長　宇田　貞夫　様

二　研究発表

◇研究テーマ

「キャリアステージを意識した展望や学校経営への参画意識を持たせる研修の推進」

◇発表者

塩谷町立船生小学校
　校長　吉成　富夫　先生

◇発表内容（一部略）

１　現状と問題点

教員の世代交代が進み、多くの学校で経験のある教員が去り、経験の浅い若手教員が増えている。そのような状況の中で、指導力に優れ、使命感をもった教員の育成が学校の急務となっている。

そこで、校長には教員一人一人の経験や分掌を踏まえ、ライフステージを意識した研修の在り方を追究していくことが求められる。そして、研修の成果を生かしながら教員に積極的に職務を遂行させ、強い経営参画意識を持たせていくことが重要である。

２　研究の概要

①Ａ校の実践例
（現職教育を通して）

○校長としての働きかけ
・目標の明確化
・研究組織の活性化を目指した組織構造の見直しと教職員の適材適所の配置
・研究の進捗状況や児童の学習の様子の確認と承認や賞賛

○成果と課題
・教職員が職務を自覚し、職務に取り組んでいる様子が随所に伺えた。
・児童の実態を把握した上で、指導の改善を図る意識が職員に定着しつつある。
・全職員が同じ目的を持って、学校課題に取り組む姿勢が強まった。
・目標とする児童像にせまる取組が必要である。

②Ｂ校の実践例
（学力推進事業研究指定校の研究を通して）

○校長としての働きかけ
・研究推進委員を中心とした教育委員会との連携の意識化
・校務分掌をもとに経験値等を考慮したリーダーやサブリーダーの決定
・研究推進のための方向性や連携を目指した学力推進委員会の設置

○成果と課題
・研究推進体制を工夫することで学校課題解決のための参画意識が高まった。
・めあてと振り返りを意識した授業の展開や授業形態の工夫が定着した。
・研究推進委員の負担解消と職員の多忙感解消のための時間の捻出が必要である。
・管理職の職員へのやる気を出す言葉かけをさらに大切にしていく。

③Ｃ校の実践例
（道徳教育を通して）

○校長としての働きかけ
・「特色ある道徳教育支援事業」の実施要項の全教職員の共通理解
・研修の推進を図った推進委員会の開催の指示
・県外先進校の公開授業研究会の情報提供での啓発

○成果と課題
・授業研究部のブロックの固い結束と時間をかけた検討が、指導力の向上や参画意識の高揚、全校体制での研修の推進につながった。
・教員間での知識や経験の共有、収集した資料の共有や活用も、指導力の向上や参画意識の高揚、全校体制での研修の推進につながった。
・研修のさらなる日常化や具体化を図り、より一層相互に学び合える研修組織を構築することが求められる。

３　提言

①管理職の育成を進める。
②研修のための環境整備を行う。
③学びの職員集団を築く。
④教育委員会との連携を密にする。
⑤多忙感解消のための時間を捻出する。
⑥職員への言葉かけに努める。
⑦情報の共有や活用が図られる環境整備に努める。

三　講演会

○講師紹介
　副会長　橋本　啓二

◇演題

「子どもと大人、同時代を生きる　～クレヨンハウス四十年の歩みから～」

◇講師　落合　恵子先生
　作家・子どもの本の専門店クレヨンハウス代表

◇講演内容

□はじめに

宇都宮駅に降りる度に遠い昔、母に連れられて上京したことを思い出す。これからマイストーリーになるが、様々な事情のある生徒と向かい合う時、どんなに不安でも元気な自分をつくってしまう子どももいる

のだということも含めて聞いていただきたい。

□一緒に、でも、それぞれの人生を

一九四五年に清住町で生まれた。父親はいなかった。十五歳の時、今日を明日につなげるために、母に、なぜ私を産んだのかを訊いた。

□第二の誕生日

出生に関して差別される側に生まれた、その視座から世の中を見回してごらん。される側のそれぞれの人と手を繋ぎ、一つ一つの窓や扉を開けていく人になって。

母のこの言葉がずっと底流にある。

□東京での生活

小学校入学前に上京した。アパートの住人は、戦争で愛する人を奪われ家を焼かれた一人暮らしの女性たちだった。

□忘れられない出来事

母の仕事に抵抗を覚えた私を、母は自分が働く雑居ビルに連れて行った。

□作文を書いて

入院している母について作文を書いたら賞をもらったが、それから友達が疎遠になった。みんなと違うということは時々そういう目に合うのだと、祖母が言った。

□クレヨンハウス設立

ラジオ局のアナウンサーとしてスタートしたが、報道の仕事をしたかった。取材旅行先の欧米で出会ったのが、子どもの本の専門店だった。

□私たちが次世代に残すもの

いのちや平和に関することは、誰かや何かに任せてはいけない。

□信頼関係

女子大で、ジェンダー論と人権をテーマに学んできた。わからないことは正直に伝えて。

□心のおもむくままに

スザンナ・タマーロの作品の一説。

□あなたが悪いわけじゃない

言葉も含め暴力は子どもの巣立つ力を奪う。

□空より高く

苦しい思いをしている人たちに、ささやかでもできることはないか。

□終わりに

老いることは悪くない。さらに自由になってくるという時間がある。

◇講演概要については、平成二十九年三月発行の『小学校長研修記録五十六』に掲載

○謝辞

副会長　田熊　克己

○閉会の言葉

副会長　横塚　貞一

栃の葉

「学力向上に向けた今後の対応について」

栃木県教育委員会

県教育委員会では、平成二十六年度から「とちぎっ子学習状況調査」を要として、児童生徒一人一人の学力向上を目指す「とちぎっ子学力アッププロジェクト」を推進しております。

本プロジェクトの主な施策として、とちぎっ子学習状況調査や学力向上アドバイザー派遣事業、調査結果活用研修会の実施など、市町教育委員会と連携・協力しながら、学校の取組を支援しております。

学力調査等の質問紙調査結果や学力向上アドバイザーの報告等から、各学校においては、課題解決に向けた校内研修を充実させるなどの組織的な取組が確実に進められていることが分かります。これも、校長先生方の本プロジェクトへの深い御理解と、リーダーシップの賜であると、心より感謝申し上げます。

平成二十八年度全国学力・学習状況調査の結果が昨年九月に公表されましたが、残念ながら、これまでの各学校の取組の成果が調査結果に十分に表れなかった状況でありました。文部科学省が、子どもが身に付ける学力を調査問題を通して測っている以上、我々、教育に携わる者として、この結果を真摯に受け止めるとともに、児童生徒の学力向上に向けてしっかりと取り組んでいかなければならないと考えます。そこで、本調査結果を踏まえて、学力向上に向けた今後の対応について、次の三つを提案いたします。

一つ目は、授業の改善です。平成二十七年十一月には、リーフレット「授業改善に向けた三つの視点」を全教員に配布いたしました。「授業の目標を子どもたちに示すこと」「授業を振り返る活動を行うこと」「自分の考えを書く習慣を付けること」の三つの視点を踏まえながら、日々の授業改善を図っていただきたいと思います。

二つ目は、指導・評価計画の改善です。今年度は、「パワーアップシート（活用編）」に加え、「パワーアップシート（基礎・基本編）」を作成しました。本シートを指導・評価計画に位置付け、効果的に活用することで、児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、指導改善に生かすことができます。

三つ目は、校内研修の充実です。今年度は、リーフレット「言語活動の充実を図る三つの提案」を作成し、全教員に配布いたしました。各学校で実施される授業研究会等にお役立てください。

校長先生方におかれましては、今後とも本県の児童生徒一人一人の学力向上に御尽力いただきますようお願い申し上げます。

地区だより

〔宇都宮地区〕

本地区では、研究主題を「新しい知を活かし、豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」として研究を進めた。

市の「児童生徒と向き合う時間の充実に向けたアクションプラン」と連動した、学校経営、教育課程、校務運営規定の各標準化プラン案の検討を始め、十テーマに沿った班別研修を行った。各学校の取組を紹介し合い協議する中で、成果と課題を共有し、新たな提案をすることができた。

また、十一月には、市教育センターで上三川地区校長会との合同研修会を実施し、文部科学省初等中等教育局視学官　澤井洋介氏から「新学習指導要領の改訂のポイントおよび求められる資質・能力について」と題して講話をいただいた。

二月には、班別研修の集大成として各班の研究発表を予定している。

〔上三川地区〕

本地区では、研究主題を「確かな学力の育成を目指す特色ある教育活動の推進」として研究を進めてきた。昨年度の研究を踏まえて、今年度は各学校が行っている学力向上の取組について、特に校長のリーダーシップの視点から実践研究を行った。各校の取組に共通するのは「学力調査結果の分析に基づいた学校の実情に応じた対策」と「児童の学習の基本、教師の授業の基本をしっかりおさえること」である。次年度は学力向上の方策についてさらに研究したい。

〔上都賀地区〕

本地区では、研究主題を「新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」とし、鹿沼市・日光市の二市で連携して研修を推進した。

鹿沼市では、研究テーマを「様々な課題に対応し、生き生きと活動する子どもの育成を目指した学校経営の推進」、日光市は「校長としての資質の向上と様々な課題への対応」と掲げて研修を進め、年二回の全体研修会を通して学校経営の充実に資することができた。

〔芳賀地区〕

本地区では、研究主題を「安全・安心な学校づくりの推進　～災害発生時における学校の対応～」とし、各学校が抱える問題点等それぞれの実態に合わせた研究に取り組み、研修を重ねることによって、校長としての危機管理能力の向上を図ってきた。

九月には各校での取組を持ち寄り、班別協議を通して意見交換を行い、見識を高めてきた。

学校の危機管理に関する方針を明確に示すとともに、教職員への周知徹底を図り、実践できるよう指導・援助した。また、危機管理マニュアルの整備を行い、緊急時の対応について、教職員で共通理解を図ることの大切さを確認できた。

各校の特質や課題はさまざまであり、実情に応じた取組を学び会うことができたことは有意義であった。

〔下都賀地区〕

研究主題「学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む特色ある学校経営の組織的推進　～夢と志を持って共に学び合う児童の育成～」を設定し、人的物的環境を生かし、様々な実践を通し、児童の生きる力を育むための組織的研究を進めた。

また、「校長として教職員の資質能力をいかに高め人材を育成するか」と題し、國學院大學栃木高等学校長川福基之氏から示唆に富む貴重な講話を頂き、校長としての重責を再認識した。

〔下野地区〕

本地区では研究主題を「新しい知を活かし、豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」とし、県から示された具体目標である「創意ある教育課程の実施」を中心に各校の実態に即して、また市全体の教育力向上につながるように研究を推進してきた。

六月には上三川小学校長柳澤邦夫氏による「子供の成長と神経発達症」について講話をいただき大変参考となった。十一月には各学校の実践発表を行った。

〔小山地区〕

本地区では、二班に分かれ、A班は「新しい知を活かし、豊かな心を持った子どもの育成を目指す学校経営の推進」、B班は「創意と活力に満ちた学校づくりに向けた校長のリーダーシッ

プについて」という研究主題で研修を行い、一月に行われる班別研究発表会で成果を確認した。また、小中合同で、教育講演会（五月）、学校経営実践発表（七月）、人権研修会（二月）、その他四つの専門部による研修等の事業を行った。

●●●●〔栃木地区〕●●●●●

本市小学校長会では、研究主題を「新しい知を生かし、豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進　～『本校ならでは』の特色ある教育活動の推進に向けた学校経営～」とし、「学校経営ビジョンの策定」「適切な組織管理」「保護者・地域社会との連携の取組」の視点からグループ別協議を進めた。それぞれの学校の特色ある教育活動推進に向けた学校経営の在り方を共有することができ、有意義な研修となった。

十一月の校長会教育講演会では、山本有三記念会会長の大塚幸一様をお招きして、本市出身の有三の生涯や著書「路傍の石」「米百俵」の背景にある有三の精神について講話をいただいた。

●●●●●〔塩谷地区〕●●●●●

本地区では研究主題を「生きる力を育み子どもの明日を拓く学校経営の推進」と設定し、全体と各市町別とに分けて研修を進めた。

二回の全体研修では、新たに示された本県教育振興計画について、栃木県教育委員会総務課・手塚昌人副主幹に、また、栃木県の総合的な子ども・若者の現状について、高根沢町・中野謙作教育委員に、それぞれ御講話をいただいた。研究を進める上での課題や留意点について、見識や理解を深めることができた。

市町別研修では、各市町が地域や学校の実態や課題に応じて、それぞれ「新しい知を生かす確かな学力の育成」「豊かに生きる力を育む教育の推進」「学校経営への参画意識を持たせる研修の推進」「生きる力を育む学校経営」を研究主題として実践的に研究を進め、研究成果を報告し合った。

●●●●●〔那須地区〕●●●●●

本地区では「時代のニーズを受け、夢や希望の実現に向かって力強く歩む子どもを育てる学校経営」をテーマとし、大田原市、那須町、那須塩原市の三市町ごとに研究主題を設定し、研究を進めてきた。

五月には関ブロ東京大会で、「地域の力を学校経営に生かす学校支援協議会の編成」と題し学校経営の組織・運営について研究の成果を発表した。

十一月の小中合同全体研修会では各市町の研究発表の後、市町や校種を越えた活発な協議が行われ研究の成果が確認された。

●●●●〔南那須地区〕●●●●

「チームとしての学校の実現をめざして　～チームで対応する力を育てる学校づくり～」を研究主題として、年間四回の研修会と各学校での実践を軸に研究を進めてきた。特に第三回では研究大会を開催した。国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官の藤原文雄先生から、「『チーム学校』と校長の役割」について、国の政策、校長の具体的な役割、学校と地域の役割分担の見直し等、質疑応答を交えながらご指導いただいた。

●●●●〔佐野地区〕●●●●●

班別研修では、「学校経営」「危機管理」「関係諸機関との連携」について、各学校の実践例や事例から、様々な取組を知ったり情報の共有を図ったりした。全体研修では、「佐野学のススメ　～郷土に誇る歴史と教育～」と題し、郷土史研究家を招聘しての研究会を開催した。

これらの研究成果を生かし、地域素材や地域人材を積極的に学校経営に取り入れ、本市ならではの、各学校ならではの特色ある教育を展開していきたい。

●●●●●〔足利地区〕●●●●●

「学校力を高め、豊かな心をもつ子供の育成を目指す学校経営」という研究主題のもと、「家庭・地域等と連携した開かれた学校づくりの推進」「学校と家庭・地域等の連携を図るための教師力の向上」の二つの視点から研究を深めた。

また、年間四回の小中学校合同研修会を行っている。「人権教育と学校経営」、「足利の教育の原点としての足利学校」の講演会なども実施し、校長自らの資質の向上に努めてきた。

豊かな心をもち　輝いて生きる子どもの育成を目指す学校経営

地域に根ざした学校づくり

真岡市立東沼小学校　直井　正行

本校は真岡市のほぼ中央部に位置しており、旧山前村の西部に当たる東沼・西沼の二地区からなっています。「おらが学校」との意識と誇りが強く、地域・保護者は非常に協力的です。児童数は三十八名と小規模校ですが、児童は純朴で明るく、作業等も真面目に行うことができます。

本校では「沼小皆家族」をモットーに、地域に根ざした教育の推進に努めていますので、取組のいくつかを紹介します。

「ミニディホーム訪問」は、年に二回、東沼地区と西沼地区それぞれにある公民館を訪問し、事前に準備練習した、歌やクイズ、かるた等の遊びをしたり、肩たたきをしたりして高齢者との交流を図っています。このような活動を通して、高齢者の方に関心を持ち、優しく接することの大切さを学ぶことができます。また、高齢者の方に喜ばれたり、ほめられたりする活動を通して、「人の役に立てて良かった。」「人から感謝されて嬉しい。」など、自己有用感を育てることができると思います。

次に、「西沼めだかの郷環境保全会」との活動です。西沼地区のメダカの存続を目的に、各家庭で飼育を始めたのがきっかけで、地域の草刈りや、水路の保全、花壇の手入れ、古代米の作付けも行うようになったそうです。八月には、メダカ池を中心に、地域に見られる動植物の観察会を行っています。

五月に古代米の田植え、十一月に稲刈りを行います。収穫した古代米は、保護者の協力により、七草がゆや赤飯として食べています。

これからも、家庭や地域との関係つくりを積極的に進め、地域の教育力が学校の教育力を高め、学校の教育力が地域の力を高めるような連携を続けていきたいと思います。

古代米の田植え

今日が満たされ、明日が待たれる学校

佐野市立船津川小学校　倉持　正江

本校は佐野市の南に位置し、すぐ南を渡良瀬川が流れ、田園に囲まれた児童数十七名の小規模校です。

小規模校の特色を生かすとともに、家庭や地域との連携を密にしながら、一人一人の児童が豊かな心を育むための教育を目指しています。取り組んでいる活動の中から次の三つを紹介します。

一　一輪車・合奏の全校活動

一輪車と合奏は一人一人の技能を高めると共に、全校で一つの事柄を達成することで成就感を味わわせ、チーム船津川としての意識を高めていくために実施しています。今年度はどちらも今までにない最高の演技を披露することができ、参観してくださった皆さんを魅了することができました。

二　外部の人とのふれあいや体験活動

外部講師を積極的に招聘し、専門家から直接話を聞くことで、本や映像では学べない人間としての生き方や考え方に触れることができ、児童の世界や考え方の幅を広げることに寄与しています。また、地域とのふれあい活動では、長年にわたり稲作体験や菊の栽培を実施しています。地域のボランティアのご指導で田植えや稲刈りを体験し、収穫した餅米で赤飯を作ります。菊は苗植えから花が咲くまで一人一鉢で育てています。

三　世代ふれあい交流では、地域の高齢者や保護者、児童が一緒になって、昔の遊びやゲートボール、輪投げなどを行い、語らいながら一緒に給食を食べ交流を深めています。

このような活動を通して思いやりの心や豊かな心が育まれ、素直で何事にも一生懸命取り組む児童が育っていますが、平成二十九年三月三十一日で閉校となってしまい、非常に残念です。

みんなで収穫

特色ある学校づくり

美しい地域で輝く子どもたちを育てる！

那珂川町立馬頭西小学校　鈴木　弘

本校は、県東の那珂川町の北部に位置し、平成十三年度に小口・小砂両小学校が統合してできた学校です。学校目標は「豊かな人間性を育み、実践力のある子の育成」とし、「美しい地域で輝く子どもたちを育てる！」ことを目指して教育活動を実践しています。

学校が位置する小砂地区は、日本の農山漁村の景観・文化を守りながら、最も美しい村としての自立を目指す「日本で最も美しい村」に加盟し、活発な活動を実践しています。よって、本校は、稲作活動、野菜づくり活動、陶芸などの創作活動に地域の優れた専門家、芸術家から指導いただくことができます。

稲作活動は、実際に苗箱に種籾をまき、育った苗で全校生四十名が田植えを行いました。

児童は、地域の方々が歌う、古くから伝わる田植え歌に合わせて、「ほーい、ほい」のかけ声をかけ合いながら植えていきます。少しでも地域文化の伝承となればと、毎年田植え歌を歌ってくださり、児童にとって貴重な体験です。

野菜作りも同様に、地域の方々に指導していただき、サツマイモやトウモロコシ、サトイモなど、学年毎に栽培しています。十一月には、餅米や畑で採れた収穫物を児童、保護者、教職員が調理し、ご指導、ご協力いただいた方々を招待し、料理を召し上がっていただきました。

陶芸では、隣接する製陶所の協力を得て、夏休みに親子陶芸教室を開催し、小砂焼きに挑戦しています。地元の焼き物であり、地域理解や地域への誇り、親子のふれあいにつながる行事です。

今後も、地域の皆さんの協力をいただきながら、小規模学校の長所を活かし、「美しい地域で輝く子どもたち」を育てられるよう教職員一丸となって努めてまいります。

稲作活動（田植え）

地域と連携した体験活動「なかよしジャンボリーｉｎ東山」

足利市立東山小学校　新井　功

本校は足利市の中央に位置する児童数二七一名の学校で、創立十七年目になります。

中央地区の児童数の減少に伴い、二つの小学校の統合により創立されました。以来、「みんな仲良し」を合い言葉に、校風の樹立が図られてきました。保護者や地域の方の学校への思いや関心は高く、ＰＴＡ活動は活発であり、自治会による下校指導や読み聞かせなど様々な形で学校に協力してくれています。

その中で特に地域と連携した活動「なかよしジャンボリーｉｎ東山」を紹介します。

なかよしジャンボリーは「学校・家庭・地域」の三者によって作られる行事です。

学校を中心とした地域を「共育の場」として、子どもと大人、地域のすべての人々が豊かに過ごせる場にしたいとの願いにより始まりました。今では、本校の恒例行事としてすっかり定着しています。今年度は十六回を迎えました。

児童は「スマイルマーケット」と呼ばれる模擬店を、縦割り班で企画・運営し、買い物や体験活動をします。今年度は四つのテーマに沿って話し合い、準備を進めてきました。子どもたちと保護者や地域の方との貴重なふれあいの場となりました。

保護者は、模擬店の経営を担当します。今年度は焼きそば、チョコバナナなどの食品やスーパーボールすくい、輪投げなど、秋祭りのような雰囲気を子どもたちに提供しました。

この体験を通して子どもたちは、縦割り班で他学年の子どもたちと協力することの大切さを学んだり、模擬店の活動を通して保護者や地域の方とふれあうことの喜びなどを感じたりすることができました。

スマイルマーケット

話題の広場

できること

小山市立小山城南小学校
阿見　勉

昼休みに校庭に出て鉄棒、雲梯、登り棒の近くを通ると、子供たちに呼び止められ、自慢の技を披露してくれます。

毎年、昼休みに中学年の子供たちを対象に跳び箱教室を開いています。指導者は、主に体育部や対象学年の先生です。

先生方の的確な指導と励ましの言葉が子供の意欲をかき立て、誰一人として諦めることなく挑戦し続けます。そして、跳べた瞬間は、喜びに満ちた何とも言えない表情をつくります。次を跳びたくて待ちきれなくなったり、今より高い跳び箱にすぐに飛びついたり等、自分を押さえきれいほどの高揚した気持ちが伝わってきます。

跳べない子は、さらに拍車がかかります。終わりのチャイムが鳴っても、すぐには止めようとしません。教室が終わると、その表情にはこみ上げてくる悔しさがにじみ出ています。でも、この気持ちは、必ず次につながるものと信じています。

今日も校庭に出ると、声がかかりました。どんな技が出るのか楽しみです。

地域の方々と共に

那須町立学びの森小学校
相馬　裕子

本校は、四月に開校したばかりの学校です。大島小、朝日小の二つ学校が統合して開校しました。

開校前の閉校に向けての膨大な仕事。学校を閉めるということの大変さを初めて味わいました。同時進行での開校準備。寂しさをかみしめる間もありませんでした。この時間を共有してくださったのは、双方の地域の方々でした。新たな学校がスムーズに開校できるようにと夜遅くまで度重なる会議に参加し、活動してくださいました。

四月の開校式から今日まで、皆様から応援していただけるようにと、教職員と力を合わせて今日まで過ごしてきました。おかげさまで、学校支援ボランティアの活動が活発で、授業や学校行事などで子どもたちと地域の方々がふれあい、その知恵や郷土愛、生き方を伝えてくださっています。たくさんの方と接することが児童のコミュニケーション力の向上にも役立っています。

これからも、様々な活動の様子を発信しながら、多くの方々に関わっていただき信頼を高めるため努力していきたいと思います。

事務局だより

事務局長　野中　政治

各地区からの要望や提案を総務部でまとめ、八月の県教委との教育懇談会で、重点を絞って協議しました。結果については、十月の理事研修会で報告しました。

今年度の大きな大会は、関ブロが東京大会、全連小が高知大会でした。関ブロ東京大会では、那須地区の丑越薫先生・塩谷地区の吉成富夫先生・南那須地区の田代昭彦先生が、地区の研究成果を発表してくださいました。

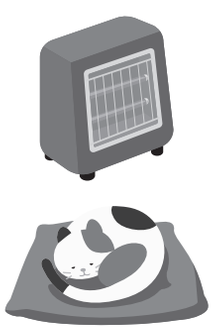
会員の減少などで、予算の執行が非常に厳しくなっているのが現状です。そこで、昨年度に続き本年度も本会計・研究大会運営基金の支出について見直しを図り、事業の検討と執行の工夫・改善を進めています。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

年度末にあたり、健康に留意され、ご活躍ください。

編集後記

毎年、八月後半に蕎麦の種を蒔いて、収穫を楽しみにしているのですが、昨年度は九月の豪雨で、今年度は長雨で全滅状態でした。

近年台風などが停滞して大雨になるケースが多いようです。今でも洪水や地震などで被災されている多くの方々に、心からお見舞い申し上げます。今後、どのような災害が待ち受けているか。子どもたちの安全確保のために、私たち教師は何ができるか、問い続けなければなりません。

ご多用なところ、本号に玉稿をお寄せいただきました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

野木町立佐川野小学校
瀬戸　栄